G LIFE

学習院広報

GAKUSHUIN PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

Vol.103
2020/WINTER

特集 目白キャンパスの仲間たち

片山 真樹子さん

河北リハビリテーション病院 副院長、神経内科医
（学習院女子高等科 1995年3月卒業）

わたしのマストアイテムは聴診器です。聴診器を通して、たくさんの患者さんの「命の音」を聞いてきました。診療の必需品ですが、聴診器を通して患者さんに触れることがコミュニケーションにつながり、親近感や信頼関係の構築にも役立っています。

自主性を尊重した学びを医師としての姿勢に発揮

女子中等科時代から、将来は何か資格を生かした仕事をしたいと考えていました。獣医や教師も考えましたが、高等科3年の時、医師には病院での治療だけでなく保健所長や産業医など様々な働き方ができると知り、志望するようになりました。現在は神経内科医で、特に認知症を専門としています。診療と同時に、認知症の方が住みやすい街づくりに貢献できたらと思いながら、日々仕事に励んでいます。

女子部では、自主性が尊重されるとその分責任も負うのだと学びました。先生方の自主性を重視するご指導と、何事ものびのびと挑戦できる環境のおかげで、自ら考え行動する力や柔軟な思考、困難なことにも挑戦する精神が身についたように思います。

医療は個々の患者さんに合わせて行うもので、正解は一つではありません。試行錯誤の連続ですが、ここにこそ女子部で学んだことが生きていると実感しています。

女子部の授業で体験した登山は今、私の趣味になっています。また、当時の親友は毎年、病院の夏祭りで和太鼓を演奏してくれています。学習院では、仕事に通じる姿勢や趣味、友人など、生涯続く宝物を得ることができました。本当に感謝しています。

OB・OG
訪問
回]

SENIOR'S EYE #08 Katayama Makiko

患者さんの暮らしに寄り添う柔軟な医療を目指して